

兵庫県立農業高等学校(定時制) 令和2年度学校評価報告書

1 学校教育目標

校訓「ゆたかな情懷、たゆまぬ研鑽」の精神を基調に21世紀の日本の担い手としての自覚と、豊かな創造性及び深い人間愛の精神を持ち、自らが主体的に判断し、行動できること豊かな人材育成をめざす。

2 重点目標

- (1) 基本的生活習慣の確立を図り、社会的自立に必要な自主性・社会性を育てる。
- (2) お互いを思いやり、尊重し、命や人権を大切にする豊かな情懷や徳性を養う。
- (3) 個を生かし個をのばす教育を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C やや改善 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
1 開かれた学校づくり	(1) 広報活動(情報発信)の積極的展開 (2) 家庭や地域との連携強化	B	・年2回の中学校訪問により適切な広報活動が出来ている。 ・本校の良い取組を外部の方に示す機会を増やしたい。 ・部署が協力して学校ホームページの更新回数を増やす。 ・今年度はコロナ禍のため、十分とは言えないが夜回り等出来る範囲で行っている。 ・地域の活動と普段の授業が結びつくことを増やしたい。 ・学校行事をオープンにして、保護者・地域の参加者を増やしたい。 ・もっと興味をひくものをアップする工夫が必要。
2 生徒指導	(1) 規律ある学校生活(交通安全指導を含む)の確立 (2) 生徒の内面理解を図る指導の工夫 (3) いじめの未然防止	A	・スマートフォン等を触ることなく落ち着いた授業環境が保たれている。 ・担任の先生中心に向かると本人・保護者に連絡し生徒・保護者理解に努めている。 ・学期に複数回の個人面談を行い、生徒理解に努めることができる。本校の旨玉にしてい、 ・いじめアンケートで早期発見、早期対応に努めることが出来ている。 ・挨拶・言葉遣い・時間厳守等基本的生活習慣が身についていない。遅刻指導をどうするかが課題で学校全体で取り組む。
3 教育課程	(1) 基礎学力の定着指導 (2) 創意工夫を生かした総合的な学習の時間の効果的な実践 (3) 個に応じた学習指導、授業研究の推進	A	・生徒の基礎学力の定着に尽力し、学びに対する姿勢も前向きになっている。・自己理解・他者理解を中心に、1人の生き方・在り方を見つめ直せている。 ・生徒の実態に合わせた教育課程・授業展開が出来ている。 ・ソーシャルスキルトレーニングをもっと取り入れるべきである。 ・生徒の実態に合わせて評価方法を見直していく。・基礎学力の定着指導について、4年卒業の生徒も授業の中で取り組んでいく。
4 進路指導	(1) 3(4)年間を見据えた組織的な進路指導体制の充実	C	・進路指導の年間計画を作成して何年をしているのかをもっとわかるように提示すべきである。 ・「進路の手引き」の作成からもっとシステムを良くしていきたい。 ・進路指導部会の定期的な実施(進路情報を学年に下ささないために不明点が多い)。 ・進路を決める3(4)学年に負担が集中している。全体に仕事を分散する仕組みが必要。 ・進路指導に関して、進路指導部と学年、学年内の連携を密にしてい必要がある。
5 人権・道徳教育	(1) 生徒の確かな人権意識の育成 (2) 人権・道徳教育推進体制の充実	A	・計画的に人権HR・講演会を実施することができている。 ・他者を尊重した生活が出来ている。 ・各学年で何をどのように取り組んでいるかわかるように計画・報告について、全職員で情報共有し学校全体で取り組んでいる。
6 保健指導	(1) 適切な保健指導体制の確立 (2) 心と体の健康の両立	A	・生徒の些細な変化に気づき、担任の先生をはじめ学年内で対応することが出来ている。その変化をタイムリーに全職員で共有するように努める。 ・養護教諭を中心に各学年の連携を密にり、対応することができている。 ・持病の生徒の把握が出来る資料を作成できた。 ・保健室の稼働率をもっと上げるために効果的な活用方法を検討する。
7 危機管理体制の整備と防災教育	(1) 実効ある危機管理マニュアルの策定 (2) 教職員の実践的な研修・訓練 (3) 防災教育の推進	B	・AED研修や結核病原生徒への対応など事前に行うことができている。 ・年2回の避難訓練・防災講話により、防災意識を高めることが出来ている。 ・危機管理マニュアルについて、職員全体で周知徹底を図り、学校の実態に合わせて改善を行っている。 ・外部での研修会での全職員への還元と校内研修の全員参加。
8 教職員の資質向上	(1) 計画性を持った研修の実施 (2) 社会の変化に対応した教育観の育成	B	・カウンセリングマインド研修等生徒対応に向けた研修が行えている。 ・授業公開が今年度の反省で次年度改善でき年間行事計画に明示できている。 ・校内規定について、情報公開に耐えられるように改善できている。 ・学校全体を今後どうしていくかを話す場所をつくっていく。
9	(1) 3修制授業の内容の明確化と充実	B	・改めて生涯基礎の活用、奉仕活動の在り方について協議する必要がある。 ・校外の奉仕活動は、取り組んでいる生徒は取り組んでいるが、取り組んでいない生徒が多く見られる。 ・生涯基礎の成績のつが方が生徒にはわかりづらく、事前に危ないことを生徒に伝えにくい。
10 学校の特色化・個性化	(1) 県農みらいプラン(個に応じ社会との接続を意識した系統的キャリア教育)の推進	B	・進路行事で自己のキャリア形成について考えさせることが出来ている。 ・学校生活全体を見通せるようなものを生徒に提示できないか(例:1年の時はこれ考えるなど)のプランについて、全職員に周知できるように職責を分ける。 ・キャリア教育充実の観点からインターンシップを積極的に推進した方が良い。
11	(1) 県指定事業:高校生心のサポートシステム研究開発の推進	B	・プリントや文字サイズ・フォント等合理的配慮を行い対応することが出来ている。 ・生徒のニーズが多様化しているため、それに合わせて教員のスキルを向上させる必要がある。 ・どの学校も苦手な分野で研修を充実させたい。 ・何を研究開発しているか、全職員に周知した方がわかりやすい。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・適切に行われている。2・学び直しの内容まで調査している方法が丁寧で素晴らしい。
・働きながら学ぶ場であることから、取組状況や改善方法を検討されており、問題ない。
・指導方針と自己評価について、PDCAを整理の上で作成されており、評価の実施が実際の教育にフィードバックされていることが伺える。

5 総合的な学校関係者評価

- ・自身に厳しい評価であるが、コロナ禍において難しい面がある中、着実に成果をあげられており、評価できる。2
・生徒の成長の実感、満足度が高いことから教職員の皆様の取組が成果をあげていることわかる。一方、多くの課題も認識されており着実に取組をお願いしたい。
・教職員が「県定時制」を良き場とするための共通認識を持って取り組まれており、その成果が現れている。
・コロナ禍においても、地域と共生し開かれた学校である点は高く評価できる。・学校がどういった目的で存在し、どのような生徒に向けてどのような活動を行っているかは開示されているが、それがもっと正しく、広く周知されることを期待します。現在、学習障害・ADHD・LDなどが広く認知されてきているがカテゴリーで分けるのではなく、また苦手なことを改善だけでなく、その個性を生かした社会生活ができること、職業や職種選択などできることを地域や企業と連携できれば良い足りかたになると思う。
・ソーシャルスキルトレーニングは興味深々、問題が複雑・混沌としている中、専門家の力を借りる重要性を強く感じる。

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方針についての評価
・コロナ禍において工夫を重ねられており、学校自己評価・改善方針は評価できる。・学校行事の情報発信を増やす工夫がほしい。 ・県農に定時制があることを知ってもらって、興味関心を持った人が入学できるきっかけ作りを工夫してください。 ・webページの更新頻度が高く、家庭や地域への情報公開と相互理解に大きく貢献したと考えられる。 ・学校の特色を明確にしつつ、その特色によって選ぶ選択肢になればいい。広義の意味でライフスタイルを軸に選んだ学びの場所であるようイメージ改善につながれば内発からの発信や地域密着など今後の展開に期待が持てる。 ・学校の存在意義やイメージはいい意味で変化しているように感じるし、さらに進化の余地はあると感じる。
・学校自己評価・改善方針は十分納得でき、意欲向上の粘り強い取組を引き続きお願いしたい。 ・複数回の個人面談による生徒理解について引き続き実施してください。 ・基本的生活習慣は将来的にも重要であるので、明るく前向きな気持ちで通学できる雰囲気作りをお願いしたい。 ・以前に比べ落ち着いた学習環境であると聞いています。具体的に取り組んだ内容が記載されていないので評価できませんがPDCAサイクルで進めるのであれば、(教育現場で数字での目標を定める良い意思は別として)、目安となる数値・指標や、具体的な内容の盛り込みが必要。
・ここまで実行してもらっている生徒を褒めしく、創意工夫を評価する。 ・オープンハイスクールの説明を聞かずに「ここまでやるのか」と驚いています。 ・人とのコミュニケーションの中で学び、人間的にも成長できるよう期待します。 ・基礎学力の定着指導や個に応じた学習指導はかなり根気が必要。何かの理由で「学ぶ」という行為に対してポジティブなイメージを持っていないことからのスタートが大半であれば、「できる」「わかる」という体験を多く持てるような学ぶ環境やしくみ作り工夫が必要。
・進学・就職の実績データから学校自己評価・改善方針は納得でき、挙げられた課題に対して着実な取組をお願いしたい。3 ・校内の連携を改善し、進路指導のパフォーマンスが向上するよう期待します。 ・大学入試が多様化し、経済的な支援をしている高等教育機関も増加している。より多くの生徒への更なる教育機会の確保のため、入試情報に加えて奨学金に関する情報を生徒に提供できるようにしたい。 ・報告書を読む限り、進路指導というものがいかに難しく、評価としても好評とは言えない現状。 ・恐らく、問題が多岐にわたり、またデリケートな面も抱えているため、一様に指導できないという点があることが考えられる。どんな問題があるか不明ではあるが、個別に入学～卒業の4年間で出来る事、出来ない事を予想し、それに即した指針を立てることが必要ではないか。目の前の課題をクリアしつつ、最終地点のイメージが生徒・学校・家庭と同じベクトルになることが望ましいのでは。
・着実に成果をあげているものと評価できる。今後とも積極的に進ってもらいたい。 ・人権意識を身に付けた若者の育成は重要。・学校、地域、職場での人間関係の構築の基本となる人権意識の気づきは大切だと思います。 ・現状の問題とど、実生活に存在する問題を自分のこととして考えられることが必要。素晴らしい講演も現実と乖離しすぎては他人事になってしまう。題材選びも重要。
・定時制の学校運営において、色々工夫されており様々な取組に敬意を表する。引き続き細やかな対応をお願いしたい。 ・新型コロナウイルス対応の成果を知りたい。 ・働きながら学ぶ身であるので、生徒の心身の変化を考慮した対応を引き続きお願いしたい。 ・心身ともに健康であるということとは難しく、デリケートな問題も多く含む為、指導する側も知識が必要である。情報共有とともに、知識の習得と実践が適切に行われているかチェック機能も必要。
・妥当である。防災意識や危機管理の往生に努めてください。 ・危機管理マニュアルは実態に応じた改善が図られているのかわからない。 ・社会人生活でも役立つことであるので、様々な取り組みを今後も期待します。
・各種の改善方針が具体的に示されているので積極的な改善への取組を期待する。 ・とても難しい問題ではあるが高校を卒業すれば、社会人生活が始まる。もちろん働きながら学ぶ生徒も多にいるが、単にお金を稼ぐという意味の社会人ではなく、それまでの学生生活よりも社会人生活の方が年単位で長い。時代にあった教育を展開すると同時に、人間力を高める場でもあってほしいので教職員の資質向上という課題はかなり重要。 ・ライフワーク(ランスであるとか、やいがいてであるとか)恐らく教職員も働き方改革は求められているであろうが本来教員とは何が本質であり、重点をおくべきかを共通で理解した上で、個々がよい社会人生活を送っていることが前提ではないか。言動にリアル感があるか、親身になってもらっているか、きれいにこなっていないか。教職員・生徒双方が出来ない事を恥じるのではなく、受け入れ、共に成長できる環境が望ましい。
・挙げられた課題に対して着実な取組をお願いしたい。 ・奉仕活動は自発的な意識と活動がどのように社会に役立っているかが理解できると取り組む姿勢が変わってくると思います。
・工夫しながら取り組んでもらいたい。進路行事を工夫し、生徒のキャリア形成が出来ているとは素晴らしいと思います。
・難しい分野であるが、今後とも積極的に進ってもらいたい。 ・生徒のニーズを把握して課題を明確にし、それぞれの対策を実施する具体的な案を作成すべき。 ・県農としての特徴ある取組を期待します。 ・県算による様々な事業を実施していることは、教職員の負担を伴うものの、教育の質の向上に寄与していると考えられることから、今後も積極的な実施を期待したい。